

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

令和6年度事業計画書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

がんに関する研究を奨励助成し、もってわが国の学術振興および人類の福祉に寄与することを目的と定めた定款に基づき、令和6年度事業計画を次のとおり定める。

1. 研究助成金の贈呈（昭和44年度創設）

がん研究の進歩、発展に貢献することが大きいと考えられる日本で行う優れた研究を対象とし、研究を行う研究者及びグループに対し、1件につき研究助成金200万円を贈呈する。公募に応じた研究者及びグループから原則40件以内を選考する。

2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（昭和43年度創設）

がんに関する研究において優れた業績を挙げた研究者に対し、高松宮妃癌研究基金学術賞（表彰楯及び副賞500万円）を贈呈する。日本人が日本で行った研究を対象とし、推薦を受けた候補者の中から「基礎」及び「臨床」の各研究領域から1件（合計2件を上限とする。）を選考する。但し、一方の領域に受賞適任者がいないときは、他方の領域から2件を選考する。学術賞受賞者には、令和7年2月に開催の学術賞等贈呈式において研究内容について一般の方にもわかりやすい講演をお願いする。

3. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催（昭和45年度創設）

(1) がんに関する重点課題を主題として、世界各国から最先端の研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催する。本年度の主題は、「新技術と新概念によって進歩するがん研究と医療」である。

会 期	: 令和6年11月12日(火)～14日(木)
開 催 場 所	: パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）
組織委員長	: 佐谷 秀行 博士(藤田医科大学がん医療センター センター長)
組 織 委 員	: Charles L. Sawyers 博士 (the Marie-Josée and Henry R. Kravis Chair of the Human Oncology and Pathogenesis Program at Memorial Sloan Kettering Cancer Center, USA) 玉野井 冬彦 博士(京都大学高等研究院・物質－細胞統合 システム拠点特定教授) 広田 亨 博士(がん研究会がん研究所・実験病理部部長) 石川 文彦 博士(理化学研究所 生命医科学研究センター チームリーダー)
国際シンポジウム	サンペトラ・オルテア 博士
事務局長	: (慶應義塾大学医学部 分子生物学教室 専任講師)
招 待 演 者	: 海外から20名及び国内から10名

討 論 者 : 約 200 名

シンポジウム終了後、「Abstracts for the International Symposium of the Princess Takamatsu Cancer Research Fund」を編集刊行する。

- (2) 本シンポジウムの特別セッションにおいて、中原記念講演を実施する。本講演は、当財団の国際シンポジウムをはじめ学術活動の基盤確立に尽力された故中原和郎博士（国立がんセンター初代研究所長、第5代総長）の功績を称え遺徳を偲ぶ趣旨で行うものであり、当年度の講演者は、Frank McCormick 博士（カリフォルニア大学サンフランシスコ校 ヘレン・ディラー・ファミリー総合がんセンター教授）を組織委員会の決定としている。講演者には、記念の楯と副賞 50 万円を贈呈する。

4. 国際講演会の開催（昭和56年度創設）

がん研究に関する講演会及び研究会開催の一つとして、顕著な業績を挙げた外国の著名な研究者を招聘し、国内3か所の研究機関で研究者を対象とした講演を行う。（講演者、時期、場所ともに未定）

講演者候補は次のとおり。

(1) 第一候補

Allan Balmain 博士

（カリフォルニア大学サンフランシスコ校 ヘレン・ディラー・ファミリー総合がんセンター教授：米国）

(2) 第二候補

Omar Abdel-Wahab 博士

（メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター 分子薬理学プログラム委員長：米国）

(3) 第三候補

Napoleone Ferrara 博士

（カリフォルニア大学サンディエゴ医療センター教授：米国）

(4) 第四候補

Michael Snyder

（スタンフォード大学医学部遺伝学部長：米国）

5. AACR高松宮妃記念講演会開催の助成（平成19年度創設）

わが国のみならず世界のがん研究の振興、研究者の激励に多大の貢献を果された故高松宮妃殿下のご功績を広く世界に顕彰し、がんの研究に関する国際交流とその助成として、米国がん学会（AACR）との共催で記念講演会を開催する。

講演会は、毎年春の AACR 年会において行われ、講演者には記念の楯と副賞 1 万ドルを贈呈する。

本年度は、AACR 選考委員会において選考された講演者により、4 月 5 日から 10 日、カリフォルニア州サンディエゴで開催される AACR 年会 2024 において、実施される。

当財団は、賞金を含む運営資金として 300 万円を拠出するとともに、例年同年会に当財団代表者を派遣することとし、本年度も昨年度に引き続き学術委員会委員の村上善則先生が出席する。

なお本事業は、2007 年から 10 年間の契約の下実施しているが、平成 29 年(2017)度に再契約し、10 年間の継続実施を AACR と合意（平成 28 年 3 月 11 日理事会決議）している。

6. 国際シンポジウム開催の助成（平成26年度創設）

がんに関する講演会及び研究会開催の助成として、平成 26 年度以降、日本国内においてがん研究に関する学会等の諸団体が主催し、がん研究の進展に資する国際シンポジウムに対して助成を行う。

<助成先> 日本癌学会が主催する学術総会における JCA-AACR ジョイントシンポジアの共催

日本癌学会が、令和 6 年 9 月に福岡で開催する学術総会における AACR との共催国際シンポジウムに対し、同シンポジウム開催に必要な費用の一部 500 万円を助成し、後援する。

日本癌学会は、明治 41 年設立の癌研究会を母体として、昭和 16 年に「がん研究の発達を図る」ために設立された学会であり、その専門分野は基礎研究から臨床研究までと幅広く、約 15,000 人の会員を擁するがん分野における日本最古最大の学会である。

7. その他

この法人の目的を達成するために必要な事業として、機関誌「CANCER」の発刊などの活動を行う。

以上